



Title	Validation of the Japanese version of the Social Functioning in Dementia scale and COVID-19 pandemic' s impact on social function in mild cognitive impairment and mild dementia
Author(s)	梅田, 寿美代
Citation	大阪大学, 2024, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/98608">https://hdl.handle.net/11094/98608</a>
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、<a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">大阪大学の博士論文について</a>をご参照ください。

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 論文内容の要旨

## Synopsis of Thesis

氏 名 Name	梅田寿美代
論文題名 Title	Validation of the Japanese version of the Social Functioning in Dementia scale and COVID-19 pandemic's impact on social function in mild cognitive impairment and mild dementia (日本語版Social Functioning In Dementiaの信頼性妥当性検証とそれを用いた軽度認知障害および軽度認知症患者におけるCOVID-19流行の社会機能への影響の評価)
論文内容の要旨 〔目 的(Purpose)〕 日本語版認知症社会機能評価尺度（SF-DEM-J）の作成および信頼性妥当性を検証し、COVID-19流行が軽度認知症（MCI）および軽度認知症患者の社会機能に及ぼす影響を調査した。 〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕 2020年6月～2021年3月に大阪大学医学部附属病院および第二大阪警察病院精神神経科外来を受診したMCIおよび軽度認知症患者とその介護者103組を対象に調査を実施した。 SF-DEM-Jの評価者間および検査再検査信頼性は高かった。内容的妥当性や収束的妥当性は介護者評価版SF-DEM-Jでは確認されたが、患者評価版では確認できなかった。介護者評価版SF-DEM-Jは、無為、易刺激性、孤独感、認知機能と関連していた。介護者評価版SF-DEM-Jの総合計と「他者とのコミュニケーション」の得点は半年間で有意に改善した。 〔総 括(Conclusion)〕 SF-DEM-Jは、MCIおよび軽度認知症における社会機能評価尺度として容認できるものである。結果は認知症患者の社会機能、特に他者とのコミュニケーションがCOVID-19の流行期間中に改善したことを示し、COVID-19流行下の制限の多い生活に適応した結果と考えられた。	

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 梅田寿美代		
論文審査担当者	(職)	氏 名
	主 査 大阪大学教授	池田 亨
	副 査 大阪大学教授	山本 浩一
	副 査 大阪大学教授	工藤 隆

**論文審査の結果の要旨**

日本語版認知症社会機能評価尺度 (SF-DEM-J) の作成および信頼性妥当性を検証し、COVID-19流行が軽度認知障害 (MCI) および軽度認知症患者の社会機能に及ぼす影響を調査した。SF-DEM-Jを作成し、信頼性・妥当性を検証し、介護者版は日本においても社会機能の評価尺度として使用できるものであるという結果が得られた。MCI/軽度認知症患者はCOVID-19流行下で持続する行動制限に、テレコミュニケーションなどを利用して適応し、社会活動を維持した可能性がある、と考えられた。

申請者の口頭発表に対し、副査の工藤教授・山本教授から日本語版認知症社会機能評価尺度が必要となった理由、SF-DEM-Jの信頼性妥当性評価方法、介護者評価版SF-DEM-Jが無為、易刺激性、孤独感、認知機能と関連していた結果に対する考察、半年間で介護者評価版SF-DEM-Jの総合計と「他者とのコミュニケーション」の得点が有意に改善した理由と同様の報告の有無、などについて複数の質問があり、申請者は既報も参照にしつつ的確に返答した。

本研究の限界として、COVID-19流行という特殊な環境下で社会交流様式が短期間で変化した可能性、再検査信頼性・反応性評価の症例数が少ないこと、対象がMCIと軽度AD、軽度DLBおよび信頼できる介護者がいる患者に限定されていることが挙げられた。

審査の結果、本研究には検討すべき課題が残されているものの、認知症患者の社会機能評価尺度において、SF-DEM-Jの作成および信頼性妥当性を検証し、COVID-19流行がMCIおよび軽度認知症患者の社会機能に及ぼす影響を初めて明らかにした点で、学位論文に値する。